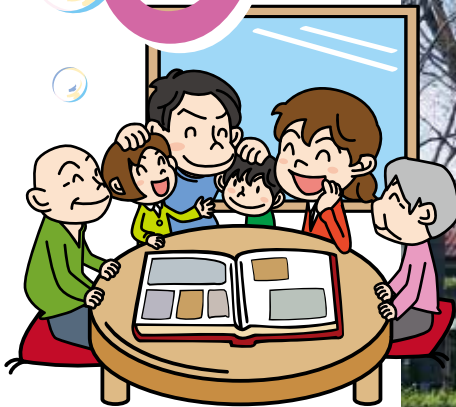


ちょっと気になる八王子マガジン

はち ちと ひ



2025年 涼風号

No.60

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉

特集 八王子の昭和

昭和の始まりと終焉の舞台となった武蔵陵墓地に続く参道入口

昭和百年記念

八王子の昭和、再発見！

（八王子の昭和史年表、昭和にまつわる5つのトピック）

世界に貢献する実践者を八王子から

八王子実践の100年

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌②

コラム 八王子自然探訪②

私の本はこうして生まれた 其の六十

やまゆり川柳会

連続する昭和 ― 身近なことから 佐藤 広

八王子に残る昭和の一部を歩く 粕谷 和夫

『世界でいちばん詳しい 自律神経の教科書』 吾妻 優 著



昭和百年記念

八王子の昭和、

再発見!

八王子の昭和史年表

大正15年／昭和元年（1926）

玉南電気鉄道（府中〜東八王子間）開通【34】

八王子市社会事業協会（現・八王子市社会福祉協議会）創立／昭和に改元

昭和2年（1927）

高尾登山鉄道がケーブルカー営業開始【34】

東浅川宮廷駅開設【34】／大正天皇が多摩陵に埋葬【43】
東京府立染織試験場設立【30】

現在も利用されている浅川駅（現・高尾駅）駅舎が新宿御苑から移設される【34】

昭和3年（1928）

市内の上水道給水開始【18】／多摩結城創製【30】
橋本義夫が書店揺籃社を開店【40】

昭和4年（1929）

武蔵中央電気鉄道（浅川駅前〜追分間）開通【34】

昭和5年（1930）

市庁舎が八幡町から天神町に移転



▲甲州街道（1925年頃）香川節さん提供



▶旧八王子駅（1925年頃）香川節さん提供

2025年は昭和百年という節目の年にあたります。「昭和」と聞いて、皆さんはどのようなことを思い浮かべますか？ 大きな戦争やその後の復興、さらには大規模開発もあり、この100年で世の中は大きく変貌してきました。もちろん八王子も同様です。今回は改めて激動の「昭和」という時代に思いを馳せ、昭和の64年間に市内で何があったのか、これまで「はちとび」で取り上げた情報を拾い上げながら振り返ってみることにします。

*年表の「**【**」内の数字は、「はちとび」で紹介した号数です。また、掲載した写真は『市民の写真集 八王子の今昔』シリーズ（揺籃社）に収録されています。さらに興味のある方はぜひご参照を。



多摩御陵造営

大正15年（1926）年12月25日、大正天皇が崩御し、翌日に元号が「昭和」と改められました。明治天皇までの歴代天皇陵は京都や奈良など、近畿地方に建設されていましたが、昭和2年（1927）1月3日に選ばれたのは南多摩郡浅川村・横山村・元八王子村（現・八王子市甘里町・長房町・元八王子町の一部）の御陵地でした。

御陵の位置が決定されると同時に工事が着工し、参道の

正面に東浅川仮停車場が開設されます。2月3日にすべての工事が完了し、8日、9日に大葬が行われました。8日未明には霊柩列車が八王子を通過。厳冬の真夜中に市内各種団体・小学校の児童らが出迎えました。同日に陵名が「多摩陵」と決定。13日から始まった一般参拝には、全国から多くの参拝者が訪れました。

多摩陵の造営は全国から多くの人を呼び込むことになり

ます。甲州街道の拡幅、市電や京王御陵線の敷設、高尾山ケーブルカー開設など、市内のインフラが急速に整備されたのもこのころです。多摩陵を中心とした史蹟名勝を案内するパンフレットや絵葉書なども数多く発行されました。

昭和の幕開けとともに、「八王子」の名が広く全国に知られることとなっていきます。



▶1954年の東浅川宮廷駅
(縣敏夫さん提供)

昭和6年（1931）

京王御陵線（北野〜御陵前間）開通【34】

八高南線（八王子〜東飯能間）開通【34】

昭和7年（1932）

洋画家の小島善太郎が加住村に転居【19】

武蔵中央電気鉄道（東八王子駅前・八王子駅前〜高尾橋間）全通【34】

昭和8年（1933）

市立第一尋常小学校に市内初の3階建て校舎と講堂完成

昭和9年（1934）

小宮村、町制施行【44】

昭和10年（1935）

本町の八王子警察署を新築【53】

昭和11年（1936）

八王子市歌完成【11】

昭和12年（1937）

平の渡しが廃止される【44】

昭和13年（1938）

みころも公園に菅原道真公銅像建つ【49】

昭和14年（1939）

八王子駅新駅舎完成【34】

昭和14年（1939）

上恩方郵便局開局【46】

昭和14年（1939）

教育科学研究会南多摩支部結成【40】

昭和15年（1940）

西八王子駅開設【34】

昭和15年（1940）

桑都文化協会発足（翌年、八王子文化連盟に改組）【19】

昭和16年（1941）

多摩郷土研究会が由木村で無医村解消運動を起す【36】

昭和17年（1942）

小宮町と合併【44】

市内に初の空襲警報発令【14】



▶新装された八王子駅の遠景
(1939年) 清水正之さん提供



▲農作物を軍に供出するための狭間報國農場の協同収穫（1940年代）石坂正己さん提供



▲元八王子農業公民学校にて近衛隊集合写真（1930年代）石坂正己さん提供



▲多摩御陵前駅（1933年頃）須崎芳巳さん提供

昭和初期の市街地図

行政の歴史と市民の記録を結び付ける活動をしている「八王子市民史を記録する会」では現在、昭和初期の八王子市、甲州街道沿いの商店などを地図上に復元しようとする試みを進めています。これは市制施行10年を迎えた昭和2年（1927）に八王子市が発行した1万2千分の1の地図を5百分の1程度まで拡大し、昭和2年生まれの建築家、小町和義さんの聞き取りや各種歴史資料などを重ね合わせ、当時の商店名や情報などを付記するものです。



▲地図検討中のようす



▲作成中の地図（三崎町）

「今後は市民の皆さんとともに充実した情報を地図に落とし込んでいきたい」と意気込むのは、中心に取り組んでいる八王子自治研究センターの藤岡一昭さん。藤岡さんは『新八王子市史』発刊から10年が経過しましたが、一過性で終わらせないのでなく、市民の手で継続的に活用していきたいです」とも語ります。今年中に作業を進め、地図の完成は2026年を目標にしているとのこと。市民の情報を集めた特大地図に期待大です。

- 昭和18年（1943）
きだみのるが恩方村に疎開〔9〕
- 昭和19年（1944）
横山村に東京陸軍幼年学校開校〔14〕
- 昭和20年（1945）
八王子空襲〔14〕／湯の花トンネル列車銃撃空襲〔14〕
- 昭和21年（1946）
天皇が市へ巡行
- 昭和22年（1947）
初の公選による市長選挙
- 昭和23年（1948）
八王子防犯協会設立〔53〕
- 昭和24年（1949）
八王子駅南口開設〔34〕
- 昭和25年（1950）
桑都郵趣クラブ結成〔17〕
- 昭和26年（1951）
八王子市教育委員会発足〔56〕
- 本町に新市庁舎開設
- 昭和27年（1952）
滝山城跡が国の史跡に指定〔47〕
- 昭和28年（1953）
現在地に八王子駅開設〔34〕／念仏院の時の鐘再建〔51〕
- 甲州街道が国道20号となる
- 昭和29年（1954）
八王子繊維貿易館完成〔50〕
- 昭和30年（1955）
横山・元八王子・恩方・川口・加住・由井各村と合併
- 昭和31年（1956）
恩方の宮尾神社境内に夕焼小焼の碑が建つ〔55〕
八王子市民球場開設〔51〕



▶現在地に移転した八王子駅（1956年）高取康治さん提供



▲広々とした朝の甲州街道（1951年頃）
縣敏夫さん提供



▲八日町付近で焼け残った民家（1945年）
奥住喜重さん提供



▲出征兵士を見送る本町二丁目第九隣組の面々（1943年頃）小柳清治さん提供

昭和32年（1957）

八王子観光協会設立

市立第四中学校で定時気象観測を開始〔2〕

橋本義夫らによって絹の道碑建立〔30〕

片倉駅開設〔41〕

昭和33年（1958）

「日光火之番八王子千人同心顕彰之燈」が日光山内の表参道付近に建立される〔57〕

昭和34年（1959）

浅川町と合併〔49〕／北八王子駅開設〔44〕

昭和35年（1960）

八王子駅前織物タワー建設〔50〕

市内初のデパート「まるき百貨店」開店〔50〕

昭和36年（1961）

浅川駅を高尾駅に改称〔34〕

富士森市民球場で第1回市民祭開催〔10〕

昭和37年（1962）

八王子市民会館、公民館開館〔56〕

昭和38年（1963）

陣馬街道の呼称が使用される〔46〕

工学院大学が中野町に移転開校〔7〕

京王八王子駅、現在地に移転〔34〕

昭和39年（1964）

東京オリンピック開催、市内が自転車競技の会場となる〔6〕

由木村と合併〔59〕

昭和40年（1965）

富士森公園に戦没者慰霊塔建立〔51〕

多摩ニュータウン計画決定〔59〕

昭和41年（1966）

台風により高尾山薬王院の仁王門など破壊〔39〕



◀八王子駅前の織物タワー（1963年）
風野康男さん提供



▲2階建ての長房団地完成の頃（1960年代）
引間俊雄さん提供



▲大善寺のお十夜（1958年）
引間俊雄さん提供



▲富士森公園野球場（1956年）
高取康治さん提供



八王子と戦争

太平洋戦争末期、昭和20年（1945）には日本中が頻りにアメリカ軍の空襲にさらされるようになりました。市内では2月から艦載機P51ムスタングという小型機による銃撃や、大型爆撃機B29による爆弾の投下・焼夷弾の空襲にさらされていきました。

7月8日には元八王子村に学童疎開していた神尾明治君がP51の銃撃で亡くなりました。これは後に古世古和子さんにより『ランドセルをしょった地蔵さん』という作品に著され、現在も読み継がれています。

8月2日未明の八王子空襲では、焼夷弾が無差別に投下され、市街地の80%が焼き尽くされました。約450名が死亡、2000名が負傷するなど甚大な被害を出しました。

その3日後、8月5日には中央本線湯の花トンネルで新宿発長野行41

9列車がP51の銃撃を受けました。52名以上が死亡、133名が負傷したこの空襲は、単独の列車への被害としては日本最大級のものでした。

市内には現在も数々の戦跡が残っていますが、中でも最大のものは「浅川地下壕」です。昭和19（1944）年から東高尾山稜のすそ野に建設が進められ、全長10kmの坑道が残っています。



▶八王子空襲で焼失した八王子駅
（清水正之さん提供）

- 昭和42年（1967）
八王子市郷土資料館開館【56】
京王高尾線（北野～高尾山口間）開通【34】
中央自動車道の調布～八王子間開通
- 昭和43年（1968）
市民祭を「八王子まつり」に改称【10】
『ふだんぎ』創刊【40】
- 昭和44年（1969）
繊維工業団地完成【46】／陣馬山頂で白馬像の除幕式【46】
- 昭和45年（1970）
市営火葬場が新設完成
- 昭和46年（1971）
小島善太郎が日野市百草に転居【19】
- 昭和47年（1972）
八王子子ども文庫連絡会（現・子ども文庫連絡協議会）発足【29】／片倉城跡公園開園【52】
小泉家屋敷が東京都有形民俗文化財の指定を受ける【59】
甲州街道で歩行者天国実施（～1977年まで）
- 昭和48年（1973）
苫小牧市と姉妹都市盟約締結【57】
- 昭和49年（1974）
日光市と姉妹都市盟約締結【57】
市民体育館（現・富士森体育館）開館【51】
- 昭和50年（1975）
市立看護学院（現・市立看護専門学校）開校【36】
柵田遺跡発掘される【43】
- 昭和51年（1976）
多摩ニュータウン鹿島・松が谷地区入居開始【59】
- 昭和52年（1977）
上川町東部会館横に「幻境の碑」建立【42】
八王子郵便局が現在地に移転【44】



▲多摩ニュータウン開発前の田植え風景（1974年）内田キヨさん提供



▲甲州街道の歩行者天国（1972年）秋山秀雄さん提供



▲中央道石川PA付近（1968年頃）浜中義孝さん提供



東京オリンピック

昭和39年（1964）、由木村と合併したことで、八王子市は現在の規模になりました。その八王子市最初で最大のイベントが同年に開催された東京オリンピックです。



▲オリンピックの自転車トラック競技会場のようす（秋山幸雄さん提供）

10月10～24日の開催期間中、市内は自転車競技の会場となり、都立陵南公園でトラック競技、一般公道を利用してロードレースが行われました。競技場西側には選手村が建設され、自転車競技に参加した38か国、408名の選手・チーム関係者が宿泊しました。

準備にあたって、各種集いや市民祭などでオリンピックに関連した催しが実施されたほか、市内一斉清掃や沿道への植栽・花壇整備、野犬狩りなども推進され、気運を醸成

大会直前の10月8日には聖火リレーが市内に到着。小雨の中、市内13区間を299名、16歳から20歳までの男女が縦走しました。

期間中は「オリンピック奉仕隊」が結成され、通訳班、救護班、通信放送班などに分かれて、市民が運営を支えています。通信放送班は八王子アマチュア無線クラブや市内の都立高校の放送研究会が参加し、ロードレースでは沿道に取り付けたスピーカーからレース状況を放送していました。



昭和から平成へ

昭和63年（1988）9月、昭和天皇の容態が急変し、武蔵陵墓地で記帳を受け付けたところ、4日間で2万6000人の記帳がありました。また、高尾山薬王院をはじめ、全国の社寺で平癒祈願が行われました。

一方、各地で自粛ムードが高まり、市内でも「いちよう祭り」が準備の大半を終えていたにもかかわらず、中止となったほか、初詣の参拝客や

デパートの客が急減するなどの変化がありました。

年が明けた昭和64年（1989）1月7日、天皇は87歳で逝去しました。11日に天皇の陵所が武蔵陵墓地に定まると、「昭和天皇をお迎える八王子市民の会」が発足。市内各団体の自発的な活動をコーディネートする役割を担い、沿道町会の道路清掃や家庭用弔旗の掲揚などが準備されました。



▶武蔵陵墓地に向かう車列（八王子青年会議所編『大喪の礼 報告書』より）

2月24日に新宿御苑で大喪の礼が執り行われ、葬列が武蔵陵墓地へ向かう際には、国道20号沿いで多くの市民が出迎えました。その後、埋葬のための陵所の儀が執り行われ、陵名が「武蔵野陵」と決定。2月27日から1か月間行われた一般参拝には、約57万人が訪れました。

武蔵陵墓地は昭和の始まりだけでなく、終焉の舞台でもあったのです。

昭和53年（1978）

中央大学多摩キャンパス開校〔48〕
川口地区社会教育推進協議会で郷土史研究会（現・八王子市川口郷土史研究会）発足〔42〕

昭和54年（1979）

第1回八王子いちよう祭り開催〔15〕

昭和55年（1980）

劇団「風の子」が美山町に稽古場をつくる〔25〕
多摩織が国の伝統工芸品に指定される〔30〕
東京医科大学八王子医療センター開院〔36〕

昭和56年（1981）

元横山町に八王子警察署移転〔53〕

昭和57年（1982）

片倉城跡公園に北村西望の彫刻作品が設置される〔52〕
南陽台の自然を守る会（現・多摩丘陵の自然を守る会）発足〔59〕

昭和58年（1983）

市内初の市民センターとして大和田市民センター開館
〔44〕／とんとんむかしの会発足〔12〕

昭和59年（1984）

八王子市庁舎が現在地に移転／八王子駅ビル完成〔34〕

昭和60年（1985）

（財）八王子市コミュニティ振興会（現・八王子市学園都市文化ふれあい財団）設立〔7〕

昭和61年（1986）

市立中央図書館開館〔29〕

昭和62年（1987）

小宮公園開園〔44〕／滝山公園開園〔47〕

昭和63年（1988）

人権モデル都市に指定される
京王相模原線（京王多摩センター～南大沢間）開通〔34〕



▲大丸、伊勢丹などデパートが立ち並ぶ甲州街道（1978年頃）八王子商工会議所提供



▲陣馬街道を走るボンネットバス（1980年代）瀨沼和重さん提供



▲京王相模原線南大沢駅開業の頃（1988年）清水正之さん提供

市内私立高校の中で最も古い歴史をもち、2026年に創立100周年を迎える八王子実践高校。実学に根差した教育や強豪バレーボール部などで知られていますが、そのルーツは創立者矢野明、萬亀子夫婦の教育にかける信念にあります。校名に「実践」を掲げ続けてきた100年にわたる学園の歴史について、矢野東校長にお話を伺いました。

世界に貢献する実践者を八王子から

八王子実践の 100年

——まずは来年100周年を迎える八王子実践高校が、どのような経緯で設立されたのかをお聞かせください。



▶創立者の矢野明(右)と矢野萬亀子(左)



初代校長の矢野明は私の祖父にあたります。私が幼いころに亡くなつてしまつたのですが、祖母の萬亀子から創立当時の話をいろいろ聞いていました。本校は八王子市で小学校教師をしていた矢野明が、1926(大正15)年に大横町の小さな織物工場を借り受け、「八王子和洋裁縫塾」を開校したところから始まります。女性には家に入って良妻賢母となるのが良しとされた時代に、実学と呼ばれる裁縫、礼儀、お茶、お花などの教養をしっかりと

昭和初期の授業風景



身につけていくための女子教育を充実させたいと考え、私財を投げうって学校を立ち上げました。

開校時に集まつた生徒は2名のみ、その年の12月に5名入学という少ない人数でのスタートでした。明と萬亀子は2人で教師を務める傍ら、リアカーを引いて市中を巡り、ポスターを貼りながら生徒を募集するなど、大変に苦労したようです。そのようなわけで当初は経営も厳しく、授業料も教員の給料も生徒の保護者から頂くお米や野菜でやりくりしていたと聞いています。開校当初は裁縫のみだった授業内容も徐々に拡大していきました。学制変更に伴って、1928(昭和3)年に



▶矢野明(上)と矢野萬亀子(下)による昭和初期の授業の様子

は「八王子和洋裁縫女学校」になり、翌年に校舎を台町の現在地に移築しました。

——1934年に「八王子実践女学校」と改称して以来、校名に「実践」ということばを冠していますが、どのような授業内容なのでしょう。

志を立てて、実践して物事を成していく重要性を感じていたことから、祖父母は「実践」ということばを校名に掲げたのではないかと思います。創立者の思いをこれからも伝えていくべく、いまでもこの名を残しています。1951年には学校法人矢野学園を

設立し、中学校や幼稚園も展開してきました。かつては生徒の手に職をつけたいという思いに対応するため、家庭科や商業科、調理科などを設けて、簿記やお茶など、より実践的な授業内容をカリキュラムに組み入れていました。また、1961年には初めて男子部を創設し、機械科、電気通信科も設置しました。現在は時代のニーズに合わせてつつ、普通科のみとなっていますが、今も昔も先生方は技術の習得だけでなく、人間形成にかかわるんだという熱い思いで生徒と向き合いながら指導しています。

また、グローバル化が進む現代だからこそ、特に日本の歴史や伝統文化を

きちんと理解し、尊重していけるような授業を展開していて、各学期には私自身が生徒たちに向けて話をしていきます。

——実践高校といえ、常に好成績を収めているバレーボール部が有名ですね。

先代の父（矢野洋四朗校長）が学校の売りとなるようなものとして目を付けたのがバレーボールでした。1958年の創部以来、長年バレーボール部を指導してきたのが、当時実践高校の社会科教員でもあった菊間卓監督です。創部当初は500人が応募するくらい大人気だったのですが、チームを

強くするために25名に絞って、特訓を重ねました。ただ技術を磨くだけでなく、日頃の生活態度も含めた指導を重ねていたそうです。

さらに市内在住で、女子実業団バレーの強豪だった日立の山田重雄監督には外部アドバイザーをお願いしました。日立の選手と一緒に合宿に行ったりすることができ、部員にとつて大きな刺激となりました。

1964年に初めてインターハイに出場、1970年にはインターハイ初優勝を果たしましたが、現在の体育館はその優勝記念に建てたものです。1973年には春の高校選抜バレー、インターハイ、国体を制して高校女子初の3冠も達成しています。おかげさまで現在に至るまで、さまざまな大会で好成績を取っています。

——ここ100年間のさまざまな取り組みが、いまの八王子実践高校を形作ってきたんですね。

当校では100年の間に4万人の卒業生を送り出してきました。現在は100周年を迎える来年に向けて式典や記念誌の準備をしているほか、新しい体育館の建設計画も進めています。

移転した当時、この辺りは一面桑畑だったんです。祖父は生徒たちと一緒に開墾して学校を作ったようで、以来

ずつとこの場所で学校を開いてきました。

今の校舎は1998年にできたのですが、その前の1996年までは木造校舎を使っていました。



◀現在の校舎

以前の父と夜の校内見回りで一緒に歩いたことがあったのですが、シーンと静まり返った中、歩きたびにミシッと音がして怖かったことを思い出します。

祖父も父も戦争をくぐり抜けた体験があったからか、物を大事にする精神があつたんだと思います。設立当初は廃材を使って校舎を建てたり、机が足りなくなれば祖父が自ら作ったりしていたという話も聞いています。

ただ単に進学実績を伸ばすということだけでなく、このような祖父母や父たちの思いを受け継いでいきたいですね。その上で生徒たちの人格を磨いて社会貢献できる人材に育てていけるような教育を、これからも展開していきたいと考えています。

旧校舎の外観



▲旧講堂（上）と旧女子部校舎（下）



の市民団体紹介

応援します
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

- ◆定例会：毎月第2水曜日13:20～生涯学習センター川口分館で開催。
ほか年2回講師を招いた勉強会、年1回の互選会も開催
- ◆会費：800円/月（入会金なし）
- ◆問い合わせ先：(651)8510（佐々木）

やまゆり川柳会

今を詠み 世界広がる 五七五



▲定例会に参加するみなさん

「やまゆり川柳会」は1997年、川口公民館で開催された成人講座「川柳入門」の修了生24名が集って翌年に発足しました。かつては先生に指導を受ける講座形式でしたが、現在は自主運営となり、仲間内で批評を重ねていくことで会も活性化してきたそうです。「プロを目指すわけではないので、楽しく作ろうという気持ちで参加しています」と語るのは、15年にわたって参加している佐々木実さん。とはいえ、びしっとした緊張感もあるようです。元会長の田中武さんは「お互い意見を出し合って、より良いものにしようとしています」と語り、現会長の清水清子さんも「仲間

からの指摘に大いに刺激を受けている」と語ります。さらに伝統ある川柳結社、「きやり吟社」主幹の安藤波瑠さんを講師に迎えた勉強会を年2回開催しています。

現在の会員数は14名。中には発足時から参加する90代の方もいます。活動のメインとなるのは月1回開催される例会で、皆さんが持ち寄った作品を披露します。会長が司会を務めて、各人の雑詠、題詠を紹介。詠んだときの状況についての話題などから雑談も盛り上がる。例会の最後には題詠から各自選んだ1句に対して互選が行われ、皆さん渾身の1句から最も良いと思われる句を挙手で選びます。狙って披露してもなかなか選句されないそうで、会に入る前から30年にわたって新聞投稿などで川柳をたしなんでいた佐々木さんも「なかなか選ばれないんですよ」と一言。

「かわやなぎかい」って何するところですか？という問い合わせもあったというほど、まだまだ多くの方に知られていない川柳の世界。俳句の会とはまた別の楽しい雰囲気の中で切磋琢磨しながら、「今」を切り取る1句をあなたも詠んでみませんか。

八王子商工会議所 連携任意団体

B ビジネスお助け隊 会員募集のお知らせ

2002年創立以来23年間、八王子商工会議所と共に市内中小企業の発展に貢献することを目的に企業OB・士業が経験を活かし、ボランティア精神で企業の支援活動をしている任意団体です

あなたもスキルを活かして、地域貢献活動に参加してみませんか？

主な
支援活動

- 本気の創業塾
- リーダー育成塾
- 各種相談・補助金申請サポート

*詳しい活動内容及び会員一覧はホームページからご覧ください

▶ <https://hachioji.or.jp/business-adviser/>

八王子商工会議所

ご連絡先：八王子商工会議所 中小企業相談所
〒192-0062 八王子市大横町11-1 ☎042-623-6311



※ここは「はちとび」を応援して下さっている方々に自由に使っていただくフリースペースです。今回は「八王子商工会議所」です。